充実したペルーでの日々

人文学部４年　桑原千明
留学先：ペルー・カトリカ大学
留学期間：２０１５年８月～２０１６年８月

私は、2015 年 8 月から 2016 年 8 月までの１年間、ペルーの首都、リマにあるカトリカ大学へ留学していました。南米への留学を決めた理由は、大きく分けて２つ、スペイン語の修得とナスカの地上絵への興味といったことが重なったことです。当初は、語学や山形大学では履修の出来ない授業の受講等、学業を目的として渡航しましたが、滞在中の１年間はそれ以上に充実した日々となりました。

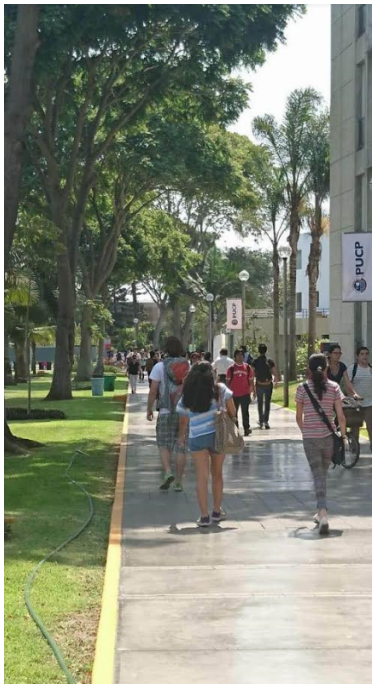
ペルーのスペイン語は比較的聞き取りやすいと言われています。しかし初めは、全くスペイン語が出来ない状態だった為、日常生活の殆どは英語を使用していました。ペルーでは、学生等を除き現地の方は基本的にスペイン語のみを話しますので､最初は言葉が通じません｡また、ペルーと日本の位置関係のように、ペルーでは文化も大きく異なります。例えば、人もバスも飛行機も、時間通りに来ることは稀です。人に何かを尋ねると、違った情報を教えられる事も少なくありません。しかし、日本では決まりきっている事や手続きが必要な事も、交渉次第では変更がきく場合があり、私はその実態を非常にフレキシブルだと考えています。

大学では、1 学期目は英語で環境学の授業を一つとり、残り時間はスペイン語の勉強へ当てました。2 学期目は、スペイン語でケチュア語と考古学の授業を履修しました。各授業の形式は教授により大きく異なります｡最も大変だったのは考古学の授業で､中間･期末の筆記試験、テーマ設定とそれに関するレポート、プレゼンテーション、さらに、毎週出される英・西語での論文資料には苦しみました。日常生活では、約 13 人の世界各国からの留学生とシェアハウスで共同生活を送り、週末にはパーティ、休みの日には旅行や観光に出かけ、これまでにない多くの経験を積むことができました。

学期間には 3 ヶ月の夏休みがあり、年明けにはナスカの研究所に滞在をさせていただきました。その後は 2 ヶ月間、南米諸国を旅行し、非常に有意義な夏休みとすることが出来ました。大きなリュックを背負い、時にはテントに泊まりながらの貧乏旅行でしたが、ブラジル、アルゼンチン、チリ、ボリビアを巡り、スペイン語を話す機会も増えたため、語学力が格段に向上しました。またこの時に出会った人々や景色は、留学生活の記憶の中でも非常に大きな部分を占めています。

最後に、南米という正反対に位置する場所に滞在する中で、良くも悪くも様々な事が起きましたが、その成果は渡航前の予想を大きく上回るものでした。この１年間の留学生活を総括して、1 ミリも後悔はありません。これから留学に行く方、考えている方々には、せっかくの留学、思い切り勉強して全力で自身の興味・関心に取り組んでほしいと思います。

SWIMMING


PUCP